

のびのび



2019年度校長室だより 第3号 令和元年7月4日

湯田小学校のキャッチフレーズ： あしたも会おうね 温かい学校 ～ 学び合い ～

2019年度チャレンジ目標：湯田小ABC

合い言葉：やさしい言葉

青少年赤十字（JRC）活動の原点を再確認

校長 伊藤 豊

ご存じのとおり、本校はJRC活動に長年取り組んできています。山口県の活動中心校となっていることから、先日、山口県を代表して全国会議に出席してきました。47都道府県から参集した校長先生方と2日間、JRC活動の現状と、今後について意見交換等の研修を行いました。

そこに集まったメンバーで一番初めに確認し合ったのが、「気づき・考え・実行する」というJRC活動3つの態度目標です。JRC活動の母体である赤十字活動は、「人道」（おもいやり・やさしさ）を最も大切にしています。誰か（困っている人や弱い人）のために、何か役立つことはできないかと知恵をしぼり、その人たちのために進んで行動する、これが、「気づき・考え・実行する」ことです。本校が大切にしている「やさしい言葉」は、最も実行しやすい方法だと考えています。



各県では、子供たち（幼小中高）を健全に育てるために様々な取組を行っていました。本校で行っている奉仕活動や募金活動、お年寄りとのふれあいは、どれも大切な意味のある取組であることを再確認することができました。

また、近年いつどこで発生するのかわからない災害に対する防災教育にも力が入れられていました。先般実施した、緊急時引き渡し・引き取り訓練や避難訓練、防犯教室などがそれにあたります。この会議を通じて、全国の取組を間近に知ることができ、本県や本校のJRC活動の一層の充実を図りたいと思っています。

「気づき・考え・実行する」ことは、決して難しいことではないと思います。自分の周りにいる人を大切にしたいと思えば、できることはいくらでもあります。例えば、誰かが話しているときに、自分を優先して口をはさむか、話している人を優先してまずは聞くか、このちょっとした気づきが肝腎です。残念なことに、学年を問わず、人の話が聞けない、いや、目の前の人話していることになかなか気づけない子供が未だ教室に見受けられます。周りの人が自分を大切にしてくれていることに気づいていないのかなと悲しくなります。子供たちの気持ちに切り込んで、理想とする態度を育てていくには、本当に根気がいります。でも、諦めずに今日も「やさしい言葉」を投げかけます。いつか「気づき・考え・実行」してくれることを願っています。

こんなところに…「やさしい姿」

あいさつのススメ



昨年度末、「あいさつ標語」に応募した子供たちに、湯田地区社会福祉協議会の増本会長さんから記念品の贈呈を受けました。その日は、学校を代表して総務委員会の6年生が受け取りました。

増本会長さんからは、すぐれた作品が多かったこと、あいさつの輪をもっともっと広げてほしいとの願いを伝えていただきました。総務委員会の子供たちも、一人ひとりがお礼の言葉と、あいさつの輪を広げていく決意を述べました。

さて、4月から3か月経過しました。みなさんの周りに子供たちのあいさつの輪が広がってきているでしょうか？ なんだか、しぼんでしまったとお感じではありませんか。子供たちが気持ちを保ち続けるには、応援団が必要です。一番身近な応援団が保護者や地域の皆様です。子供たちの中

には、立派な大人へと育てていくための大切な芽が宿っています。どうぞ、皆様の応援、あいさつのシャワーで、この芽を大きく育てていただきたいと思います。



子供たちの心を育てる

本校のキャッチフレーズは、「明日も会おうね、温かい学校」であることは既に多くの皆様をご承知のことと思います。

しかし、日々の学校生活では、残念なことに子供同士の「いじめ」や「暴力」が発生することがあります。その都度、子供たちへの直接指導や保護者の方々と連絡を取り合って解決を図ってきています。

「いじめ」や「暴力」の発生は、未熟な子供同士だから仕方ないとは決して考えていません。学校は、「いじめ」や「暴力」といった恐怖があってはならないと考えています。どの子供も安心して学べる環境でなくてはなりません。だからこそ、これまでいろいろな場面で「やさしい言葉」の大切さを強調してきました。

本校では、すべての教職員が、すべての教育活動を通じて道徳教育を行っています。一人一人が大切な存在であること、大切な存在を「いじめ」や「暴力」で傷つけることは許されないことを繰り返し巻き返し教え続けています。子供たちの中にある立派な大人へと育てていくための大切な芽を信じているからです。未熟な子供ですから、一時の衝動で周囲の者を傷つける場合がありますが、私たち教職員は、これからも粘り強く子供たちに語りかけ、導いていきたいと思ひます。ご家庭や地域においても、私たちと同様に粘り強く語りかけ、お導きをお願いします。※写真は、図書資料を活用した学習の一コマです。本は子供を穏やかにし、知的冒険へと誘ってくれます。



6月の図書給食 6月18日（火）

がんづき

『つるばら村の魔法のパン』（作：茂市久美子）より

「がんづき」とは、岩手県・宮城県を中心とした東北地方を代表する、伝統郷土料理のひとつ。濃い茶色でふわふわとした生地の上に、ごまとクルミがまぶしてある蒸しパンです。主な材料は小麦粉と黒糖です。